

## 令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立東粉浜小学校協議会

## 1 総括についての評価

「安全・安心な教育の推進」では、常に危機感をもちながら見守り続け、児童に寄り添い、学校全体でチームとして継続的、組織的に取り組み続けるとともに、SCやSSWなど関係諸機関とも連携しながら継続的に取り組むことができている。

「未来を切り拓く学力・体力の向上」では、学力経年調査の標準化得点で、概ねどの学年もほぼ100を超えることができ、一定の学力の定着を図れている。新しい学びの形として、一人一台学習者用端末を「令和の文房具」として日常的に授業でも家庭でも持ち帰り効果的に活用できている。体力面では、運動やスポーツが好きになる取り組みができているが、コロナ禍以降低下した体力においてはまだまだ課題が残る。

「学びを支える教育環境の充実」では、一人一台学習者用端末を活用した新しい授業スタイルが定着するとともに、ペーパーレスや業務軽減などの働き方改革の推進に向けた成果が出ている。保護者・地域や関係諸団体と連携しながら、地域に古くから伝わる伝統文化等様々な教育的資源を学習過程に取り入れたり、プロの音楽家や漫才師など専門家による「本物」を体験できる特別授業をしたりすることで、子どもたちの心を揺さぶることができている。

中期目標に関しては、数値的にはあとわずか届いていない項目もあるが、ほぼ達成できており、この4年間で着実に向上してきている。

## 2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

## 最重要目標1 安全・安心な教育の推進

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。(R6年度80.1%)
- 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。(R6年度86.5%)
- 小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。(R6年度82%)
- 常に危機感をもち、アンケートの結果を受け丁寧に聞き取りをし、事実確認、指導を行うことだけで終わらず注意深く経過観察をしているのがいい。引き続き、見守り隊や地域、SCやSSWとの連携をはじめ、スクリーニング会議や「いじめ虐待防止委員会」を有効活用し子どもを守ってほしい。
- 子どもが一人で悩むことなく、より相談しやすい信頼関係を築き、心に寄り添った指導を徹底してほしい。
- 年間を通して行うたてわり班活動やできる限りほめて伸ばすということは子どもの自信にもつながる大切な指導だが、同時に、指導すべきことは、子どもの心に響くよう表現を工夫しながらきちんと指導し続けてほしい。
- 各学年の実態に応じた防災週間や「道徳の日」の取り組みはとても良いことである。さらに地域の訓練にも保護者と子どもたちが参加できるとなお良い。
- 「本物」にふれる体験や探究・読解プロジェクトとして取り組んでいるキャリア教育の実践は、子どもが夢やあこがれをもつ、いいきっかけとなっており継続すると良い。
- 安全教育の推進として、登下校に関する指導や交通ルールを遵守するということが「命」を守ることにつながることをさらに徹底してほしい。

## 最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。(R6年度42.1%)
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。(R6年度75.5%)
- 令和7年度末の校内調査において、「早寝・早起きができている。」に対して肯定的な回答をする児童の割合を80%以上にし、「毎日朝食を食べている」に対して肯定的な回答をする児童の割合を95%以上を維持する。  
(R6年度 早寝早起き73.3%、朝食97.3%)

- 学校見学を通じて落ち着いて学びに取り組んでいることと、授業における協働的な学びとして一人一台学習者用端末の活用の実際を見ることができてよくわかった。
- 学力面では大阪市平均と比較する中でよい結果を残しているが、二極化が広がっているならば、さらに誰一人取り残さない学力の向上に向けて引き続き取り組んでほしい。
- 英語についてはC-NETの先生の協力や全学年で行われるモジュール時間の定着もあり、ネイティブの音声をたくさん聞くことがいい結果につながっている。
- 体力向上に関して、地域も協力したいが広々と運動できたりボール遊びができたりする公園がない。学校で体を動かすことの意識改革や習慣化に努めているのはありがたい。
- 朝食喫食率が高いのはいい。睡眠を確保する規則正しい生活のリズムに関しては、健全な心身の発達のためには必須で、各家庭の事情も考慮しながら引き続き啓発していく必要がある。

## 最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の85%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕(R6年度81.1%)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を97%以上にする。(R6年度96.5%)
- 年度末の校内調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上を維持する。(R6年度91.2%)
- ICT機器を使った学習が充実しており、その結果、タイピング、プレゼン力などが育まれている。しかし便利の裏に危険もあるので、加害者にも被害者にもならぬよう情報モラルの育成にも学年の実態に応じて取り組み続けてほしい。
- 働き方改革の成果として長時間勤務が改善されているのがよい。
- 読書が好きであるという割合が高水準であるのが素晴らしい。すべての学びのもととなる力なので、いつまでもこれを維持してほしい。

## 3 今後の学校園の運営についての意見

学習面では、時代を見据えて、引き続き学習面で一人一台学習者用端末をさらに有効活用するとともに、直接伝えにくい子どもの救いとなる「心の天気」「相談申告機能」等は活用し続けてほしい。同時に鉛筆で「書く」ということも大切に、デジタルとアナログのバランスの良い指導をしてほしい。体力面では、系統立てた専科指導による計画的な体育学習を進めたり、意欲的に取り組むことができる体育行事やそれに関連する頑張りカード、表彰などを工夫したりすることで、引き続きより意欲的にすすんで体力向上に努めていくように働きかけていってほしい。熱中症対策として体育館や特別教室にエアコンをつけるなど環境面の充実に切望する。働き方改革においては、真に「子どものためになる」学習・行事・業務の精選(例えばメールによるアンケート、生成AIの効果的な活用等)を今以上に進めていってほしい。